



写真提供：北村和秀氏

Contents

- シンポジウム開催のお知らせ P.1
- 最終成果公開シンポジウム開催 P.2
- シンポジウムin諫早開催 P.3
- 有明海の民族信仰・新メンバー紹介 P.4

シンポジウム開催日が決定しました

佐賀大学有明海総合研究プロジェクト 最終成果公開シンポジウム

日時：平成22年3月21日（日）
9時30分～17時
場所：佐賀大学工学部6号館1階

詳細は2ページへ



佐賀大学有明海総合研究プロジェクト シンポジウムin諫早

「有明海と人間活動の持続的関係を目指して」

日時：平成22年2月21日（日）
13時～17時30分
場所：諫早市民センター

詳細は3ページへ



佐賀大学有明海総合研究プロジェクト 最終成果公開シンポジウムを開催します

－佐賀大学有明海総合研究プロジェクト成果報告－

プロジェクト長 山下 宗利

佐賀大学有明海総合研究プロジェクト最終成果公開シンポジウムを、平成22年3月21日（日）9時30分より、本学理工学部6号館都市工学科大講義室（1F）にて開催いたします。

本プロジェクトは2005年4月より5年間時限で始まりまし。今回のシンポジウムはその最終成果報告会となります。今回は6つの部門それぞれが明らかにした内容と今後の課題についての報告を予定しています。また外部評価委員を含めた総合討論を計画しており、来場のみなさまの忌憚のないご意見、ご批判等をいただければと考えています。

3月末まで残された時間はわずかですが、プロジェクトメンバー一同最後まで努力してまいります。多数の方のご参加をお待ちしています。



佐賀大学 有明海総合研究プロジェクト 最終成果公開シンポジウム

■主催 佐賀大学
有明海総合研究プロジェクト

■開催日 平成22年3月21日（日）
■時間 9:30～17:00
■会場 佐賀大学理工学部6号館1階都市工学科大講義室
■参加費 無料
どなたでもご自由に参加いただけます

■お問い合わせ
佐賀大学
有明海総合研究プロジェクト事務局

電話 0952-28-8846
FAX 0952-28-8846
E-mail ariakeinfo@ml.cc.saga-u.ac.jp

住所 840-8502
佐賀市本庄町1番地
有明海総合研究プロジェクト

◆研究発表◆

コア研究1

●環境物質動態研究部門

環境物質動態研究部門の成果 — 底層環境を中心にして—

山本浩一
原田浩幸

●干潟底質環境研究部門

干潟底質環境研究部門の成果
— 有明海湾奥部の干潟底質環境と環境保全・修復—

原口智和

●環境モデル研究部門

環境モデル研究部門の成果
— 有明海奥部における環境異変の実態と要因について—

速水祐一

コア研究2

●微生物相研究部門

有明海の微生物 — 浄化作用と感染被害 —

神田康三

●食水系感染症研究部門

ビブリオ・バルニフィカス感染症対策 — 5年間の成果—

大石浩隆

コア研究3

●地域文化・経済研究部門

有明海のワイズ・ユース
— 沿岸域における地域文化・経済の視点から—

五十嵐勉

シンポジウムin諫早のご案内

経済学部 榎澤秀木

シンポジウム



有明海プロジェクト・コア3では、シンポジウムを諫早市内で行う予定にしております。これは、コア3のメンバーに、コア1の速水先生ならびに元京都大学教授の田中先生に加わっていただき、社会科学的・自然科学的な視点から「有明海問題」を考察し、市民との交流を図るものです。以下、実施要領を記します。

統一テーマ

「有明海と人間活動の持続的関係を目指して」

企画趣旨

「有明海」は、「奇跡の海」と呼ばれるほど貴重で豊かな自然であり、その沿岸地域には独特の文化が形成されている。近年、人間の過剰な利用によって深刻なダメージを受けながらも、まだ豊かな自然は残されている。本シンポジウムは、この有明海と人間活動の持続的関係を、韓国の状況との比較を交えながら、社会科学的ならびに自然科学的な視点から考察し、市民との対話と試みるものである。

報告者

- 藤永 豪 (地理学)
＜有明海における漁撈活動と民俗知＞
- 山下宗利 (地理学)
＜有明海のノリ生産の特徴＞
- 五十嵐勉 (地理学)
＜農と漁—有明海における生業構造の変容とモノカルチャー化＞
- 李 應喆 (生態人類学)
＜有明海と干潟文化—日韓比較を通して＞
- 武田 淳 (生態人類学)
＜「あんこう網」と有明海から朝鮮海域への出漁＞
- 榎澤秀木 (環境法)
＜諫早湾干拓事業の決定過程＞
- 速水祐一 (沿岸海洋学)
＜有明海奥部の海洋環境の変化＞
- 田中 克 (水産資源生物学)
＜有明海再生と森里海連環＞

シンポジウムin諫早

- 主催 佐賀大学
有明海総合研究プロジェクト
- 開催日 平成22年2月21日 (日)
- 時 間 13:00～17:30
- 会 場 諫早市民センター
- 参加費 無料
どなたでもご自由に参加いただけます
- お問い合わせ
佐賀大学
有明海総合研究プロジェクト事務局

電 話 0952-28-8846
FAX 0952-28-8846
E-mail ariakeinfo@ml.cc.saga-u.ac.jp
住 所 840-8502
佐賀市本庄町1番地
有明海総合研究プロジェクト

有明海の民俗信仰—オシマサンまいり—

藤永 豪(佐賀大学文化教育学部地域・生活文化講座 准教授)

読者の皆さんは、「オシマサン」という言葉をお聞きになったことがあるでしょうか？。オシマサンは有明海沿岸の人々から広く信仰されている神様で、鹿島市七浦の沖合5kmほどに浮かぶ男島、女島の二つからなる「沖の島」という小さな島に祀られています。とはいえ、満潮時には海中に没し、干潮時に姿を現すという岩礁に近いものです。伝承によれば、昔鹿島に「お島」という娘が暮らしており、ある年、旱魃に苦しむ農民たちを助けるために、神に雨乞いの願をかけ有明海に身を投じました。その願いが通じて、降雨を招き農民たちは助かったという話があり、これがオシマサンという呼び名の由来であるといえます。つまり、オシマサンは、漁民の神であると同時に農民の神でもあるのです。毎年旧暦6月19日に当たる日の夜に、沿岸の各集落から幟や提灯を掲げ、船でお参りに出ます。新聞でも取り上げられる有明海の大祭礼行事です。この「オシマサンまいり」の船に部外者が乗ることはなかなかできないのですが、2009年7月31日、鹿島市七浦の皆さまのご厚意により、私は有明海総合研究プロジェクトの先生方と一緒に祭礼前のオシマサンの清掃作業に参加し、沖の島に上陸することができました。ここで紹介しています写真はその時のものです。早朝、地元の方々と共に船に乗り込み、沖の島に向かいました。神官も同行し、オシマサンや石碑の丁寧な清掃作業後、おごそかに神事が進められました。私にとって大変興味深い行事でした。しかし、現在では、オシマサンまいりに参加する人々や集落の数も減少し、また、行事の内容も時間も簡略化してしまっているようです。だからこそ、こうした有明海独自の民俗文化を人々の記憶の中から掘り起こし、記録、継承していくとともに、グローバル化やナショナルスタンダードという言葉に埋没していく現代日本とその内側の地域のあり方について、有明海という現場から問い続けていくことが大切であると考えています。



写真1 沖の島全景
現在は、燈台が設置されている。



写真2 オシマサンの清掃
附着しているフジツボも丁寧に取り除く。オシマサンの手にはにぎりめしがのっている。

写真3
オシマサンの化粧直し
髪や眉、唇など、細部まできれいに塗りなおす。



写真4 清掃後の神事の様子
供物を置き、神官の祝詞から神事は始まる。

プロジェクトメンバー紹介

技術補佐員 山辺 宏輔

コア1研究 干潟低質環境部門

【着任：2009年12月1日】



平成21年12月1日付けで技術補佐員として勤務させて頂いています。

以前は、某電気メーカーでメンテナンス業務等を行ってまして機械に囲まれた生活でしたが今回、こちらのプロジェクトでデータ管理とタワーメンテナンスという少々、勝手の違う業務内容となりましたが大好きな海に関係した仕事なので毎日、楽しみながらやらせて頂いています。

有明は地元の海ですし環境や皆様のお役に立てる様、努力したいと考えています。